平成25年度　第2回　鶴岡市立藤沢周平記念館運営委員会（会議概要）

○日　時　　平成25年9月18日（水）午後2時15分～4時30分
○会　場　　鶴岡市役所　3階　庁議室
○審議事項　1　協議
（1）平成25年度後期展示について
①展示名について
②展示構成について
（2）平成26年度以降の企画展示について
①テーマについて
（3）その他
○出席委員
遠藤崇寿、遠藤展子、鈴木文彦、栗原正哉、犬塚幹士、東山昭子、髙山邦雄、堀　司朗
○欠席委員
湯川　豊
○市側出席職員
教育委員会教育部長　山口　朗、教育委員会社会教育課長　加藤　保、
教育委員会藤沢周平記念館長　鈴木　晃、同館主査　三浦真紀、
同館専門員　進藤恵理也、同館専門員　成澤万寿美、同館主任学芸員　小林愛恵
○その他出席者
高橋吉弘、穴澤　亮（運営支援業務受託者）
○公開・非公開の別　　非公開
○非公開の理由　　顕彰する個人の情報を含むため
○協議事項
（1）平成25年度後期展示について
①展示名について
◆内容
特別展示〈藤沢作品と庄内の食〉を提案
◆意見など
特になし
◆協議結果
提案名を了とする

②展示構成について
◆内容
第1部（1）エッセイに見る庄内の食

（２）庄内の風習と味

第２部（１）小説に見る庄内の食

（２）庄内藩の食

第３部　　庄内の地酒

以上について提案

◆意見など

・庄内の特有の食べものがよく出ているが、庄内の食べ物の根幹を為し、庄内の風土・文化を形作ってきた米のことが全く触れられていない。米がないと。一番大事。

・作物だけでなく、豊かな土地であることに触れたほうが良い。

・第３部の「地酒」では、酒だけがクローズアップされている。エッセイ、小説にみる食の部分が窮屈。酒のスペースは今の半分でもいい。

・「味ごよみ」、非常にいい。庄内にはおいしいものが沢山あるのだから、もうちょっと大きく扱って見せてもいい。

・地酒に関わるイベントを紹介するのもあり。ただ紹介するのではなくて、ずっと続いている食文化というのを表現するといい。

・残日録では友達と一緒にハタハタを食べているからおいしいので、そこのところで感動する。文学作品としての心への残り方を考えた抜書きにして欲しい。

・地元の人にとっては当たり前の食べものを遠くから来る人と結びつけるのは、藤沢先生の思いだと思う。郷土の食べものなり、ふるさとに生きた思いだろうと。

・佐知がしょうゆの実を持ってきた場面がある。私が強く感じたのは望郷の念。うちで食事を何回もしていたが、クチボソの焼き物とか、コダイの焼いたのとか、孟宗汁とかを出していた。我々からすると毎日は食べていないけれども、ごく自然な食べもの。

・本に出ていないようなことを、地元の方々に聞いて載せたら面白いと思う。

・作品の中で書かれている、作家・藤沢周平らしい捉え方だなと思う部分までの引用が必要。でないと単なる物産紹介になる。

・全部、きれいに均等に紹介しなくても、民田ナスだったら、ほかの２～３倍あるという、取り上げ方もあると思う。

・酒は、難しい。酒の良し悪しは書かれていなかった。大山の酒が有名だが、鶴岡にも結構、造り酒屋はあった。

・庄内藩の食事というのがあるが、中級武士の一年間の献立の記録はあるが非常に質素。小鯛なんて一年に何回食べるだろうか。クチボソもそう。ほとんど食べていない。漬け物にちょっとしたものを添える、非常に質素なもの。

・「たそがれ清兵衛」、一生懸命、畑つくっている。庄内藩の侍は相当に広い土地を持っている。「民田なす」とか「だだちゃ豆」とか「きゅうり」とか野菜は自家製であった。実際に栽培された野菜のことを出してはどうか。

・来館者へのサービスとして舌で味わうという企画とかがあってもいい。
・漬物とかの販売もあったら嬉しい。

◆協議結果

・「小説に見る庄内の食」における作品の抜書きは、単に料理の紹介に終わらず、どのような場面で料理が語られているのかが、わかるようにする。
・漬物などの物販について、検討する。
・庄内の食が実際に味わえる企画について、検討する。

（２）平成２６年度以降の展示について

①テーマについて

◆内容

第６回企画展　〈『風の果て』の世界〉（仮称）
会期：平成 26 年 6 月 6 日（金）～11 月 4 日（火）

第 7 回企画展　〈藤沢周平と論語〉（仮称）
会期：平成 26 年 11 月 7 日（金）～平成 27 年 3 月 31 日（火）

開館 5 周年記念特別企画展　〈藤沢周平と直木賞前後〉（仮称）
会期：平成 27 年 4 月 3 日（金）～

以上について提案

◆意見など

・第７回、すごく楽しみ。ぜひやっていほしい。市井ものは今回（浮世絵）がはじめて。江戸を中心に『海鳴り』、『橋ものがたり』とかあるし、あとは『白き瓶』もある。第６回、武士もの。武士ものの長篇というところで『蟬しぐれ』と似ている。もっと色んなものを見せてあげたいと思う。
・『風の果て』は『蟬しぐれ』以前の代表作。鶴岡の我々からすると、大変興味がある作品で、作品中の堰の開削が天保堰に似ている。主人公が夢をみて、実現に向けて努力する、出世の道が開いていく話だが、藩が庄内藩そのもの。
・「論語」はタイトルをもっとふくらみを持たせたものにしたほうがよい。致道館教育から庄内学への流れの中で、周平さんが培われてきた。大変難しいテーマだと思うが、一度はとり上げるべき内容であることは確かだと思う。
・『風の果て』は広い意味での「海坂もの」だし、鶴岡でやるにはふさわしいものだが、『蟬しぐれ』とかの流れでいくつかやってきた。たとえば幕末、清河八郎さんとか。藤沢さんの歴史物として、やる価値があると前から思っている。史料は清河八郎記念館にもある。違うものの作品に光を当ててみたいなという気がする。
・「論語」が作品にどの程度出ているかわからないので、タイトルも含めて要研究。
・直木賞受賞前後は、付き合いが深い担当の編集者が監修すべき。
・『風の果て』、ぜひ見てみたい作品の一つ。NHK のドラマを見ると、庄内だけの作品

かなと思う。最初に出てきた山並みが吾妻連峰で、直江堰で、南原の開墾地だと米沢の人は思った。各所に庄内だけの作という部分でない、広がりをもち得る作だと。

・『漆の実のみのる国』。近々のところでやってもらいたと思う。大河ドラマで上杉鷹山を推す運動が進んでいる。藤沢先生が書かれた部分とドラマで扱うものとの違いみたいな部分を、ここでできれば楽しい。

・「論語」という言葉は、限定しすぎる感がある。鶴岡の伝統文化とか、あるいは藩校によって培われた伝統とか、そういう形にしたほうがよい。

・『漆の実～』も含めて、歴史物を一つちゃんとやってほしい。

・展示のバラエティを少し考えたほうがよい。

◆協議結果

・提案のあった 3 企画展のテーマは、基本的には了とするが、第 7 回企画展名については、再考することとする。